

未来の
同仁会の

医療・介護を担う 事務職員の育成をめざして

事務職員1〜3年目振り返り研修会

同仁会では将来を担う事務職員（幹部）の育成をめざし、勤続・職位ごとに研修制度を設けています。その一環として2月16日、就職1年目から3年目までの事務職員13人を対象とした研修会を実施しました。

研修会では「就職前と就職後で自分の変わった点（1年目課題）」、「自分の業務の中で感じた課題とそれにどう取り組んだのか（2、3年目課題）」について、各自まとめて報告しました。「民医連医療を担う医師養成をどうしていくのか」、「仕事量・ルールが

多い業務をどう整理するか」、「属人化した業務をいかに標準化するか」、「カルテ必要記載事項をいかに徹底させるか」、「自分自身の医療事務スキルをいかに上げるか」、「そもそも働くこととは何か？何のために、誰のために働いているのか」、「見通しを立て、組

織的に業務を進めることの重要性」などが課題として挙げられ、1〜3年目職員だけでなく、全世代の事務職員に共通する課題が出されました。どれも自分自身で「課題」を設定（認識）し、その課題に対し自分自身で調べながら、また上席者や職場の仲間に相談しながら真摯に向き合い、日々悩みながらも成長していることが感じられる報告でした。



▲研修会に参加されたみなさん

当日は、先輩職員からの温かい講評、励ましの言葉が送られ、職員同士が認め合い、ともに成長し合うことの大切さを感じられました。この春に就職する新入事務職員4人もWEBで参加し、自己紹介と抱負を述べました。

〈参加者の感想（抜粋）〉

- 大きなテーマでしたが、目の前の仕事の先にある相手の姿を想像すること、誰かに頼ること、仕事に対する基本的な姿勢などを見直すきっかけとなった。
- 課題と取り組みだけでなく、成果まで報告している人は、自分の中でしっかり振り返りができていると思った。
- 業務を整理して、マニュアル化することの大切さがわかった。
- 業務内容をわかりやすく説明されていて、イメージが持てた。専門的な知識を身につけることは、やりがいにつながると感じた。

研修の目的

- ①民医連綱領の視点を持ち、綱領実践の中心的役割を担う事務職員を育成する。
- ②上記の役割を担うための政策力・組織力を学ぶ。
- ③貧困と格差社会が進む中、同仁会の事務職員として「誰のために」「何のために」「誰とともに」、医療・介護・福祉に取り組むのか、確信を持つ場とする。

OCAN(核兵器廃絶風力キャンペーン)学習会

気候危機の克服のために

再生可能エネルギーとは？

この100年で地球の平均気温は、約1.2℃上昇していることはご存じですか？この1℃が大きな影響をもたらす、様々な異常気象が頻発し、私たちの生活を脅かしています。「気候危機の克服のために、自分たちに何ができるのだろうか？」「再生可能エネルギーとは？」と思い、2月10日、再生可能エネルギーについての学習会を開催しました。和田武先生（和歌山

をお願ひし、一現在の日本と世界の取り組みについてお話しいただきました。お話を聞いて、世界と比べ、日本の取り組みが非常に遅れていることに驚きました。国は、新しい火力発電所建設や原発の再稼働を目指し、太陽光や風力などの自然エネルギーから作られる電力を重視しない政策を取っており、再生可能エネルギー産業が発展しない原因の一つになってい



大学客員教授・元日本環境学会会長）に講師

ます。また家庭では、エアコンの設定温度を上げる、こまめに電気を消すなどの取り組みが「めんどくさい」、「不便」、「我慢」といったネガティブなイメージを持たれがちです。では、他に個人で何ができるのか？電力会

デンマークの至るに見られる市民風力発電所
総発電量の半分を供給（2020年）する風力発電設備の約80%が住民所有（家庭の約1割が所有）
風力発電所の設備容量の20%以上は地域住民所有を義務づけられている（再エネ法）



コペンハーゲン市民の共同所有風力発電所（和田武、撮影）
農家個人所有風力発電所

は、再生可能エネルギーから作った電力を供給する新電力会社がたくさんあります。「家庭で使用する電気を新電力会社と契約すると、温室効果ガス削減につながる」とお話しされました。世界でも、再生可能エネルギーが普及している国や地域は、住民が主体となって行動しています。私たち一人ひとりの行動を変えていくことが、重要だと思いました。（OCAN事務局）